

女子は色白く、額頰豊満、臉邊淡紅色を呈し媚目秀明、艷容ある者少なからず。之をドン、ウオルガる哈薩克に比すれば、肉色の點に於て少しく異なる所あり。惟ふに彼等新疆に來たる後、他種族と混血したると、氣候風土の異なるの結果なるべし。彼等の言語文字は、纏頭回に同じきも、談話に於て、多少訛りあるを覺えたり。蓋し彼等の言語文字の纏頭回と同一なるは、同宗なる爲め自然接觸の頻繁なりしに因らん。

性質は極めて素朴にして、之に接すれば恰も仙人と交はるの感あり。彼等は年月を知らず、自己の年齢を辨せず、歩行するも遠近を解せず、全く數理的觀念を闕如せり。然れども唯感嘆に堪えざるは、彼等の老幼男女が、乘馬の術に長じて、其の巧妙なること、他種族の企及すべからざるに在り。遊技としては競馬あるのみ。彼等一たび鞭を揚げて馳驅するや、鳥の空中を飛行するが如く、地の險夷は、更に眼中に置かざるなり。漢人は彼等を評して、人を以て馬に膠着したるに同じと曰へり。吾人乘馬の技術に於ては、遺憾なから到底哈薩克の女子小兒にも及ぶべからず。彼等の乘馬術は、實に獨特のものにて、世界無比と謂ふも過賞に非ざるべし。